

# 「このまちに住み続けたい」と思える魅力あるまちであるために

私たちの「石狩PRIDE」って何だろう？ 30年後も今のまちの魅力を持続するにはどうしたらいいのか？ 新計画を手に家族みんなで考えてみませんか？

## 石狩 PRIDE

### 絆

新現役世代<sup>®</sup>を中心とした地域での子育て支援によって、いろんな特技を持った**市民の活躍の場**があります

特技を生かして子育て支援に貢献

OK!?

はい

子どもたちに  
楽しみ聞かせ

地域との  
関わりが深まり  
幸せな暮らしに

地域の多世代が集まって交流したり  
シェアハウス<sup>®</sup>などで**支えあって**  
暮らしています

集まる場所が  
あって安心

買い物やスポーツなど、  
外出の機会も多くて、市民が  
**健康にいきいき**と暮らしています

みんな元気に  
健康づくり

歩いて暮らせる  
まちは  
毎日楽しい

### 環境

地域のエネルギーが  
市民の生活を支えています

魅力や資源が  
たくさん!

環境にやさしい  
市民の  
ライフスタイル

いしかりの自然や産業など様々な  
**資源が有効に活用され**  
市民が豊かに暮らしています

環境やエネルギーに対する  
市民の意識が高く**環境負荷<sup>®</sup>**  
少ない暮らしが広がっています

## 第5期 総合計画は 「市民と行政の約束」



企画課 池内 直人

まちには防災計画や福祉計画、教育計画など、さまざまな計画があります。その中でこの計画は、石狩市がどんなまちを目指し、どんなまちづくりを行うかを総合的に考えるための道しるべとなるものです。

新総合計画の一番の特徴は「たぐさんの市民の皆さんに参画してもらい、作り上げた計画である」ということでしょうか。

計画づくりは平成25年4月から始まり、約2年半をかけて行われました。30年後、「こんなまちになったらいいな」「こんなまちをみんなで作りたいな」といったことを、審議会や、中学校・高校、市民カレッジ、石狩青年会議所、市民アンケートなど、できるだけ多くの所で皆さんの意見を求めてきました。その数2230人！ 本当に多くの方に協力いただきました。

なぜ、これほど市民の皆さんの声にこだわったのかといえば、それは皆さんに「まちづくりの主役」として参画していただきたかったからです。

私たちは新計画を「市民と行政の約束」と位置付け、これまで以上に「市民と行政がパートナーとなり、ともに支え合う」関係を大切に考えていきます。まちづくりに市民の皆さんにも参画してもらおうと、「もっといしかりを好きになっただけでいい」という願いからでした。



新総合計画では、市民の皆さんから寄せられた「30年後、こんなまちになったらいいな」に関する意見を、分かりやすくイラストで再現しました。



# みんなでつくる、 こんなまち・いしかり

30年後、「こんなまちになったらいいな」、「こんなまちをみんなでつくりたいな」など、総合計画策定中にいただいた市民の意見をまとめてみました。



※1 6次産業化：第1次産業である森林水産業が、森林水産物の生産にとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光資源のような地域資源を生かしたサービスなど、第2次産業や第3次産業にまで踏み込むこと  
 ※2 新現役世代「審議会(分科会)」の中で、知識や技能、経験を有する高齢者を「真跡者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした  
 ※3 シェアハウス：一つの家を複数の人と共有して暮らすこと。賃貸住居に比べれば安く、同僚人との交流が自然と促れるというメリットがある  
 ※4 環境負荷：人の活動が、人を取巻く環境に対して各種の干渉を生じ、自然に負荷を生じさせること

市民の皆さんには、この新計画からまちづくりの楽しさや、やりがいを感じ、まちへの誇りを持ってもらえたらと思っています。皆さんが参画できる仕組みをつくっていきたいと思いますので、これから私たちと一緒にまちづくりをしてみませんか！

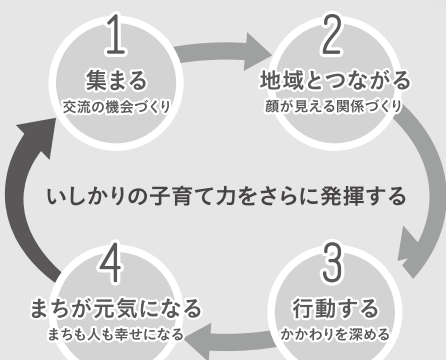


## 目指すのは「石狩PRIDE」の醸成

新計画では、前計画からの基本理念である「自立・協働・共生」を引き継ぎながら、中でも「協働」を推し進めるため、さらに二歩踏み込んで、「石狩PRIDE」の醸成を図ることをテーマに掲げています。

「石狩PRIDE」とは、まちへの愛着や誇りのこと。まちづくりへの協働作業を通して、市民の皆さんに石狩をもっと好きになって、まちに愛着や誇りをもってもらうことが、目指すまちの姿の実現につながると私たちは考えています。

それは、小さな取り組みから始まるかもしれませんが。初めは一人、二人が気づいた石狩の魅力が、「いしかりイイネ！」と共感する仲間を集め、やりがいや責任感、自発性を伴いながら、次の楽しみや実践へと広がっていくことを新計画では目指しています。その広がるイメージを、戦略目標ごとにイラストを使ったサイクル図で表わしました。



【例】戦略目標2で描かれた「サイクル図」